

幸袋まち まちづくり協議会

連絡先 飯塚市幸袋 50 番地 幸袋交流センター
発行元 総務・企画部会 TEL 0948-22-1189

会報

まちづくり協議会事例発表会

～庄内公民館～
3.11



去る3月1日(日)に庄内公民館で市のまちづくり協議会の事例発表会がありました。今年度は幸袋まち協も発表し、これまでの取り組みや「幸ふくろう」の紹介を行いました。



幸袋まち協マスコットキャラクター

幸ふくろう市長表敬訪問



30年2月20日(火)

やんまはだん!

「幸ふくろう」は、「郷土愛・人と人をつなぐキャラクター」として誕生しました。

今後は交流の懸け橋として地域のイベントや、幸袋のアピールのため市のイベント等に参加していく予定です。

幸ふくろうの活躍を皆さん温かく応援してください。

総務・企画部会 【我がまちの史跡・人物を訪ねて】

人物編 (目尾) 杉山 徳三郎

目尾炭鉱(後の古河目尾鉱)は石炭採掘の坑内湧水の排水処理が困難なため、長崎、旧大村藩士杉山徳三郎に明治9年、同炭鉱を譲渡しました。

杉山徳三郎は、蒸気汽船建設の技術を生かし、明治13年、坑内排水にスペシャルポンプ(蒸気機関によるポンプ揚水)を導入し、その試運転に成功しました。

翌14年には、蒸気機関による完全排水に成功しました。

以後、筑豊の諸炭鉱でも機械化による排水が始まり、出炭の量産ができるようになり、筑豊炭田の近代化への道を開きました。



杉山 徳三郎

史跡編 (本町) 民家に見られる^{こてえ}鏝絵

鏝絵とは、^{しっくい}漆喰を使って左官職人が^{こて}鏝で民家土蔵の壁や商屋入口の壁紙に浮き彫りした絵です。

旧伊藤伝右衛門邸前の通りにある^{さねふじ}實藤家、その二階正面の壁に三枚の鏝絵があります。中央に富士山、左に馬に乗った武将と家来、右に二頭のイノシシが描かれた「富士の裾野の巻狩り」の見事な絵です。實藤家は屋号を「ますや」と言い、昔は反物を扱う呉服商であったそうです。

旧伊藤伝右衛門邸前の通りは長崎街道の一部であり、以前は他にも鏝絵がある家があったそうですが現在は實藤家のみとなっています。昔は街並み景観の風物詩の一つであったと思われます。

鏝絵は、その家の安全、繁栄、健康、長寿、幸福を願う図柄が多く、江戸中期に始まり全国各地に見られますが、特に大分県に多いそうです。

寄稿 宮津 銚治)



「幸袋」交差点から旧伊藤伝右衛門邸方向に入って右から2番目のお宅です

～1年を振り返って～

☆今年度、初めて年3回の会報誌が発行出来ました。

我がまちの人物史、史跡紹介も掲載することが出来ました。

☆会報誌を通じて、まちづくり情報発信以外に、総務 企画の役割事業を検討していきたいと思ひます。

地域づくり部会

自治会対抗の各球技大会は、円滑に推進出来ました。

9月に実施した歴史探訪は、参加者が多く、地域との交流を深めることが出来ました。



☆地域の皆様が幅広く出来るスポーツ、ニュースポーツ、屋内で出来るカロリーング競技大会等を検討していきたいと思ひます。



あんぜん・環境部会



一斉清掃クリーンアップ運動 29年 12月 3日(日) / 30年 3月 18日(日)

29年度は 2回の清掃活動を実施することが出来ました。皆様のご協力ありがとうございました。今後もゴミのないまち幸袋を目指して定期的に一斉清掃活動を行ってきたいと思ひます。



↑ 飯塚市長揮毫による



幸袋小中一貫校
正門 グランド
完成!



健康・福祉部会

高齢者社会の中「自分の健康は自分で守る」をテーマにウォーキング、グラウンドゴルフ、健康体操を実施しに多くの方が参加されました。



30年 2月 17日 (土) 健康ウォーキング ~目尾地区~



30年 1月 18日 (休) 健康体操

今後の目標】市の健幸・スポーツ課と連携して、健康に関する色々な取り組みを計画したいと思ひます。

教育・文化部会



3月 24日(日) ジュニアリーダー修了式を行いました。14名のジュニアリーダーさん 1年間お疲れ様でした。30年度もジュニアリーダーさんの活躍を期待しています。



子どもフェスティバル 29年 12月 17日 (日) 旧目尾小学校体育館

将来の幸袋を担う青少年の育成のため、地域活動に取り組んできました。今後も子どもたちが健康で楽しく過ごしやすいまちづくりに励んでいきたいと思ひます。

福祉ネットワーク委員会部会



認知症サポート養成講座 30年 2月 28日 (水)

今年度の振り返り】部会の重要事項として認知症の方の徘徊や行方不明者の捜索のための「危機管理部」を作り、呼集訓練を実施しました。

今後の目標】いつ起きるか分からない事態にすぐに対応できるためには、地域の方からの「早期通報 早期発見」が不可欠です。そのために今後は、各機関と連携して「危機管理部」の必要性を地域の方にアピールしていきたいと思ひます。